

クイックスタートガイド

imgixのセットアップはいたって簡単です。画像の置き場所と基本的なデフォルト設定を指定するだけで、たった数分でimgixの画像URL APIを介して画像を配信できるようになります。

以下はクイックスタート設定ガイドです。インテグレーションが複雑な場合は、ソースの設定から、 キャッシュのTTL、デフォルトのパラメータ、カスタムドメインなどの詳細情報を設定できます。imgixと のインテグレーションを行う前に、画像の設定に関する推奨事項もSetting Up Image Storage(画像 ストレージの設定)ガイドでご確認ください。

アナリティクス、ユーザーの追加、支払方法などについての詳細は、Account Setup & Analytics (ア カウント設定とアナリティクス)でご確認いただけます。

imgixを使って数分で簡単に画像を配信

imgixアカウントを新規登録、または登録済みのアカウントにログインしたら、最初にDashboardが表示されます。このDashboardがあらゆるアクティビティやアカウントの統計データを管理するハブとなります。ではまず、画像の配信を始める簡単なプロセスから紹介します。

1. DashboardからSourcesページを開き、[ADD A SOURCE]をクリックします。ここで画像のス

トレージをimgixにリンクさせます。

You don't have any image Sources set up yet. Once you add a Source, you can manage it from this page. Our setup documentation has a walkthrough for the storage methods we support.



ソースを設定します。imgix.netサブドメイン名(画像の配信に使うURLのルート)を入力し、画像の置き場所を指定します。画像ストレージを選択すると、それに該当するオプションが表示されます。

1. Choose an imgix.net subdomain

You'll use this subdomain to serve your images through imgix. You can add more subdomains to this source later, or you can configure your own custom domain to point to this source if you'd like.

https:// my-domain

.imgix.net

2. Tell us where your images are stored

When you request an image from imgix, we must first fetch the master image from your storage before we can apply transformations.

 Amazon S3
 Connect to an existing Amazon S3 bucket with its own credentials. Google Cloud Storage
 Connect to an existing Google Cloud
 Storage bucket with its own credentials.

O Web Folder

Connect to any folder with a public URL where you are hosting your images.

O Web Proxy

Connect to any images on the internet, as long as they have public URLs.

注記: ここで指定するサブドメイン名はソース固有のものとし、再利用はできません。カスタ マイズの多いソースを設定する場合(特にカスタムドメイン)には、この先も使う予定のドメイン

名を指定してください。

3. [Save]をクリックして設定内容を保存し、ソースをデプロイします。問題なく設定できると、画像ストレージがimgixにリンクされ、サブドメインが有効になります。ソースの設定ページが表

示され、ステータスを確認できます。



 テスト画像で試してみましょう。ブラウザーにhttps://your_domain.imgix.net/path-to-imageと 入力し、画像が表示されることを確認してください。

問題なくリンクされていることを確認できたら、APIパラメータを適用して画像を最適化していきます。 例として以下のような手順がおすすめです。

- APIに関するドキュメント:利用可能なパラメータを例を用いて説明しています。
- Serving Images (画像配信)ガイド: imgixユーザーの多くが画像の最適化に利用している、 おすすめの手順を紹介するガイドです。
- 開発者向けツール:使用するパラメータが決まれば、imgixのクライアントライブラリを利用して、最新の言語およびフレームワークで画像ヘルパーを構築できます。

画像ストレージの設定

imgixをテストし有効に使っていくための重要な要素の1つが、imgixの高度なキャッシュアーキテク チャを最大限に活用して画像ストレージを設定することです。画像カタログの保存方法を熟考し、画 像をどのようにキャッシングすべきかを事前に指定しておくことで、マスター画像とエンドユーザー間 のチェーン内で可能な限り速く画像が配信されるようになります。

imgixは、Amazon S3、Google Cloud Storage、Microsoft Azure、自社サーバーのいずれにも直接 接続できると同時に、インターネット上のあらゆる画像へのプロキシ接続にも対応しています。URL でパブリックにアドレスを指定できる画像であれば配信できるので、特定の場所に画像を移動させて おく必要はありません。それでもやはり、インテグレーションをスムーズに実現するために、下記のベ ストプラクティスを取り入れることをおすすめします。

ファイルとサーバーの構成

- ・ 画像は1か所に保存します (ウェブプロキシを利用の場合を除く)。非プロキシのimgixソースのマッピング先は1件のみですが、必要に応じて複数のソース(例えばテスト環境と本番環境用など)を用意することもできます。
- 分類するために画像をルートディレクトリ内のフォルダー(Amazon S3バケットやweb folderなど)に編成し、プレフィックスを加えてソース別に各レベルのフォルダーのアドレスを指定することができます。しかし、ルートディレクトリの1つ以上のフォルダーから画像を配信したい場合は、画像のURLを決定する際にその場所にソースを設定し、フォルダー名を追加しておく必要があります。こうすることで、パフォーマンスを最大限に引き出すと同時に、高い柔軟性を確保できるのです。
- 配信には最高解像度の画像のみを保存します。imgixでは、単一の高解像度マスター画像を 使用するというコンセプトを基に、その画像から複数の派生バージョン(サイズや切り取りが 異なるものなど)が必要に応じて生成されます。

- フォルダー名やファイル名には特殊文字の使用を避けてください。特殊文字の変換にはエンコーディングが必要となるため、慎重に取り扱わなければ画像に対して404エラーが発生するおそれがあります。使用を避けるべき特殊文字の一覧はこちら。
- 画像をフィンガープリントして更新や削除を自動化します。imgixのパージ機能でスピーディー かつ包括的な処理ができますが、マスター画像については、表示先すべてのファイル名を変 更し、ファイルそのものを更新して管理することを推奨します。フィンガープリントの方法やそ の目的に関する詳細は、画像フィンガープリントについてのガイドをご覧ください。

Cache-Controlヘッダー

imgixのサービスでは、Cache-Control: max-ageへッダーを柔軟に取り扱うことができます。キャッシュTTLのデフォルト動作は、どのソースタイプでも(Google Cloud Storageは除く)、ヘッダーがあれ ばそれを尊重するよう([Respect origin])に設定されています。ヘッダーがない場合は、デフォルト のキャッシュTTL値である「1年」が適用されます。さまざまなヘッダーの設定を尊重するにはこの手 段が最もシンプルですが、imgixのキャッシュアーキテクチャを効果的に活用できるような合理的な設 定にしておきましょう。以下に一般的なユースケースをいくつか紹介します。imgixのキャッシュ設定 の詳細はソース設定のドキュメントをご覧ください。

• 新規のGoogle Cloud Storage(GCS)ソースの場合は、Advanced Source Settings(ソース

のアドバンス設定)のCache TTL Behaviorモードが自動的に**[Enforce minimum]**に設定されます。この最小値はヘッダーの有無に関わらず、全ファイルに対してmax-age=1yr, public となります。これは、すべてのファイルに対してキャッシングが確実に機能するようにするた めです。詳しくは Google Cloud Storage設定ガイドをご覧ください。

• 別の有効期限を設定したい場合は、Cache TTL Behaviorは Respect originのままとし、

Default Cache TTL値を変更します。

 個々の設定ではなく、すべての画像に対して同じ max-age 値を設定するには、Cache TTL Behaviorを[Override origin]に設定し、オリジンを上書きするOverride Cache TTL値を指 定します。

imgixへの 接続

- imgixのサブドメイン名を慎重に設定してください。一度ソースに名前を付けると、そのソースが削除された場合でも別のソースに名前を移すことはできません(カスタム・標準のいずれのドメインにも該当)。サービスのテスト段階であれば、後ほど本番環境で使用する予定のない名前を選ぶことをおすすめします。これはドメイン名を元のソースから切り離すことができないためです。
- 複数の画像リクエストへの対応に複数のソースを作成しないでください。HTTP/2の導入により、かつてはパフォーマンス向上のためのベストプラクティスであったシャーディングは、かえって逆効果になってしまいます。
- 画像ストレージがAmazon S3の場合は、バケットに対して読み取り専用アクセス権を持つ IAMユーザーを作成します。ソースを設定する際は、画像のセキュリティ強化としてそのよう な認証情報を設定してください(設定方法は、Amazon S3設定ガイドをご覧ください)。

ソースの作成

imgixでの最初の作業は、ソースを作成してimgixと画像ストレージとをリンクさせることです。現在、 ソースには次の5種類があります。

- Amazon S3: 既存のAmazon S3バケットに接続します(専用の認証情報を設定)。
- Google Cloud Storage: 既存のGoogle Cloud Storageバケットに接続します(専用の認証 情報を設定)。

- Microsoft Azure: 既存のMicrosoft Azureファイル共有またはコンテナー(Blob)に接続しま す(専用の認証情報を設定)。
- Web Folder: 特定のドメイン(またはドメインのサブフォルダー)からのコンテンツをプロキシします。
- Web Proxy: 有効な画像URLであればプロキシ可能です。

要件はソースごとに異なります。ソースによってはデフォルトのパラメータ値、デフォルト画像、 cache-controlヘッダー、オリジン間のリクエスト情報など、その他オプションの設定が必要な場合も あります。

制限事項: ソースのサブドメイン名には、シングルレベルのみがサポートされています。例えば、 images.imgix.netは使用可能ですが、my.images.imgix.netは使用できません。デフォルトでは、各 ソースにサブドメインとカスタムドメインを合わせて計20件まで設定可能で、アカウントごとに設定可 能なソース数は最大100件です。必要なドメイン数またはソース数が制限値を超える場合は、弊社ま でお問い合わせください。

Amazon S3ソースの追加

Amazon S3ソースは、既存のAmazon S3バケットに接続します。imgixからの接続には設定された 認証情報を使うため、画像がパブリックである必要はありません。

S3ソースの設定

注記: us-east-1(米国東部)リージョンのS3オブジェクトを取得する場合、可能なときは常にimgixは 画像の取得にホスト名s3-external-1.amazonaws.comを使用します。これはリードアフターライトの ー貫性を保証するためです。可能でない場合はデフォルトのホスト名s3.amazonaws.comを代わり に使用します。

- 1. imgix Dashboardで Sourcesページを表示し、[New Source] ボタンをクリックします。
- 2. [Source Type]のドロップダウンリストから[Amazon S3]を選びます。

General			
Source Type	?	Amazon S3	•
AMIC Cottingo			
Awo Settings			
Access Key ID	?		
Secret Access Key	?		
S3 Bucket			
S3 Path Prefix	?	path/to/your_images	
Domains			
imgix Subdomain	?	https:// my-domain	.imgix.net
		+ IMGIX SUBDOMAIN + CUSTOM DOM	AIN 🤝 REVERT ALL

3. Amazon S3ソースの詳細設定を入力します(アクセスキー/シークレットキーについては後述

のセキュリティ注意事項をご確認ください)。パラメータは以下のとおりです。

- Access Key ID: imgixへの接続に使用する認証情報のアクセスキー。
- Secret Access Key: imgixへの接続に使用する認証情報のシークレットキー。
- Bucket: imgixに接続する画像を置いているS3バケットの名前。

- Prefix: 変換するフォルダーのプレフィックス。S3で画像が変換される前にプレフィックスが画像パスにプリペンドされます。デフォルトの画像パスは「/」です。
- 4. 画像のベースURLに使用するSubdomain名を設定します。

注記: ここで指定するサブドメイン名はソース固有のものとし、再利用はできません。カスタ マイズの多いソースを設定する場合(特にカスタムドメイン)には、この先も使う予定のドメイン 名を指定してください。

5. [Save]ボタンをクリックします。ここでソースがデプロイ待ちの状態となります。



	1		Δ.	
	ĸ	74	. 1	

セキュリティ注意事項

imgixをS3バケットに接続するために専用のAmazon IAMアカウントを作成することを強く推奨します。Amazonの認証情報はすべて、業界標準の暗号化に関するベストプラクティスを用いて保存されています。

簡単で安全

IAMアカウント用の「Amazon S3 読み取り専用アクセス」ポリシーのテンプレートは、安全で使いやすいだけでなく、imgixの将来的な機能追加への柔軟性も兼ね備えていますす。

- 1. AWS IAM Dashboardにアクセスします。
- 2. 左側のナビゲーションペインで[ユーザー]をクリックします。
- 3. [ユーザーを追加]をクリック、または既存ユーザーを選択します。
- ユーザーを追加する場合は、[ユーザー名]を指定し、[プログラムによるアクセス]を選択します。[次のステップ: アクセス権限]を選択します。
- 5. [アクセス権限]タブに移動し、[アクセス権限の追加]ボタンをクリックします。
- 6. [既存のポリシーを直接アタッチ]タブを選択します。
- ポリシーテンプレートの一覧が表示されます。「Amazon S3 読み取り専用アクセス」の行まで
 スクロールダウンして、その横の「選択」ボタンをクリックします。
- 8. [次のステップ: 確認]を選択し、[アクセス権限の追加]をクリックします。

アドバンス設定

imgixでは少数の読み取り専用のアクセス権限さえあれば画像を正しく取得できます。セキュリティーをさらに強化したい場合は、imgixと画像を置いているバケットに対して専用のIAMアカウント(権限の制限付きアクセス)を使ってください。

imgixで必要なS3のアクセス権限は以下の通りです。

- ListBucket
- GetBucketLocation
- GetObject

アドバンスポリシーの例

注記: 独自のポリシーを手動で作成する場合は、Amazon IAM Policy Simulatorを使い、念のために 再確認してください。

アドバンス設定

カスタムドメイン、デフォルト設定、キャッシュTTLなどのオプションの設定に関する詳細は、 Advanced Source Settings(アドバンスソース設定)をご覧ください。

Web Folderソースの追加

Web Folderソースの接続先は、パブリックにアドレスを指定できるWebサイトにある画像のフォル ダーです。通常はWebサイトの既存の画像用フォルダーがこれに該当します。

Web Folderソースの設定 imgix Dashboardから[Sources]ページを開いて、[New Source]ボタンをクリックします。 [Source Type]のドロップダウンリストから[Web Folder]を選択します。Screenshot-Web folder source setup

Web Folderソースの詳細設定を入力します。パラメータは以下のとおりです。

Base URL: パスにプリペンドするプロトコル、ホスト、パス情報 (http://www.yourcompany.com/images/など)。 画像のベースURLとして使うSubdomain名を設定します。

注記: ここで指定するサブドメイン名はソース固有のものとし、再利用はできません。カスタマイズの 多いソースを設定する場合(特にカスタムドメイン)には、この先も使う予定のドメイン名を指定してくだ さい。

[Save]ボタンをクリックします。ここでソースがデプロイ待ちの状態となり、[Source Details]ページが 表示されます。

アドバンス設定

カスタムドメイン、デフォルト設定、キャッシュTTLなどのオプションの設定についての詳細は、 Advanced Source Settings(アドバンスソース設定)をご覧ください。

画像の配信

ソースの設定を完了しデプロイすると、imgixへの画像リクエストを作成できるようになります。リクエ

ストはimgixのソースタイプによって少しずつ異なりますが、基本構造はどのソースでも同じです。



Imgix URLのホスト名またはドメインはいずれも、形式がYOUR_SOURCE_NAME.imgix.netとなり ます。上記URLの場合、ソース名は**example**ですので、ホスト名の形式はexample.imgix.netとなり ます。

パスには他の追加情報が含まれる場合があります。例えば、ストレージ内(サブフォルダーが複数あ る場合)のどこに画像があるかを特定するディレクトリ情報などです。この例では、画像へのプルバス に/products/desk.jpgが含まれています。下記をクリックすると各ソースタイプの詳細を確認できま す。

- Amazon S3
- Google Cloud Storage
- Microsoft Azure
- Web Folder
- Web Proxy:

URLのクエリ文字列にはimgixのパラメータが追加されます。上記の例では、クエリ文字列は ?w=600 で始まり、アンパサンド(&)を使ってパラメータを付け加えています。これらのパラメータで画 像の処理方法が決定します。上記URLの場合、w=600は画像の幅、exp=1は露出設定を指定して います。

Amazon S3ソース

S3バケット内のオブジェクトにはそれぞれAmazonのホスト名とプレフィックスがあります。S3バケット から画像を処理するには、Amazonのホスト名とS3のプレフィックスをimgixのホスト名と置き換える 必要があります。URLのこれら以外の部分は、変更の必要はありません。 例として、下記がAmazon S3のURLだと想定しましょう。S3バケット名は**example-bucket**、S3プレ フィックスは**example-prefix**に設定されています。



ソースを設定する際には、バケット名の入力が必須です。これはAmazon S3のホスト名とバケット名 を自動的にimgixのホスト名と置き換えるためです。ソース内のすべての画像でプレフィックスが同じ 場合は、ソースでも同様に定義し、URLをさらに短くできます。



Google

Cloud Storageソース

Google Cloud Storageバケット内のオブジェクトにはそれぞれホスト名とプレフィックスがあります。 バケットから画像を処理するには、ホスト名とプレフィックスをimgixのホスト名と置き換える必要があ ります。URLのこれら以外の部分は、変更の必要はありません。

例として、下記がGoogle Cloud StorageのURLだと想定しましょう。バケット名はexample-bucket、

プレフィックスはexample-prefixに設定されています。



ソースを設定する際には、バケット名の入力が必須です。これはGoogle Cloud Storageのホスト名と バケット名を自動的にimgixのホスト名と置き換えるためです。ソース内のすべての画像でプレフィッ クスが同じ場合は、ソースでも同様に定義し、URLをさらに短くできます。



Microsoft Azure Storageソース

Azureコンテナー(Blob)またはファイル共有のオブジェクトにはそれぞれ、ホスト名とプレフィックスがあります。Azure Blobコンテナーまたはファイル共有から画像を処理するには、ホスト名とプレフィックスをimgixのホスト名と置き換える必要があります。URLのこれら以外の部分は、変更の必要はありません。

例として、下記がAzureコンテナー(Blob)のURLだと想定しましょう。アカウント名は

example-account、コンテナー名はexample-blob、プレフィックスはexample-prefixに設定されて

います。



また、下記がAzureファイル共有のURLだと想定しましょう。アカウント名はexample-account、ファ イル共有名はexample-file、プレフィックスはexample-prefixに設定されています。



ソースを設定する際には、Azure Storageアカウント名とコンテナー名またはファイル共有名の入力 が必須です。これはAzure Storageのアカウント名とコンテナー名またはファイル共有名を自動的に imgixのホスト名と置き換えるためです。ソース内のすべての画像でプレフィックスが同じ場合は、 ソースでも同様に定義し、URLをさらに短くできます。



注記: Azureファイル共有のアセットは、コンテンツタイプが application/octet-streamにデフォルト設定されています。そのため、パラメータを設定していない画像をimgix経由で配信すると、直接ブラウザで開かれずダウンロードされてしまいます。これは、imgixのパラメータ(auto=compressなど)をURLに追加、またはデフォルトパラメータをソースに追加することで回避できます。

Web Folderソース

Web Folderソースは、画像をホストしている、パブリックにアドレス指定が可能なURLのフォルダーに imgixソースを接続します。例として、下記が画像のURLだと想定しましょう。



ソースのベースURLをhttps://www.yourcompany.com/images/と設定した場合は、URLのこの部分 を「imgix.net hostname」と置き換えることができます。imgixソース名が**example**の場合は、画像を 配信するURLは以下となります。



Web Proxyソース

Web Proxyソースを使用すると、imgixソースから、パブリックにアドレス指定が可能なURLのどのような画像でも配信できます。Web Proxyソースを使用して画像を配信するには、まずオリジナル画像のURLをエンコードする必要があります。エンコードしたURLは、Web Proxyホスト名の末尾に追加されます。Web ProxyのURLにはすべて、署名を付ける必要があります(URLの署名についての詳細は、Securing Images(画像のセキュリティ対策)ガイドをご覧ください)。

Web Proxyソース名がexample で、配信する画像のURLが以下の場合を例に説明します。



エンコードしたURLは次のようになります(パラメータ値「s」がSecure Imageツールまたは以下の コードにより生成されています)。



パラメータの適用

画像のベースURLを設定したら、次は指定どおりに画像を処理して配信するための画像URL APIパ ラメータを適用します。パラメータはすべてimgix内で正規化されるため、URL内での記述順は重要 ではありません。詳しくは、Order of Operations(演算の順序)をご覧ください。

以下は基本セットの使用例です。他の利用可能なパラメータ情報についてはこのドキュメントをご覧く

ださい。例ではベースURLが以下に設定されています。

http://assets.imgix.net/examples

基本パラメータの例

この例では、デスクトップや携帯電話、タブレットなど各種デバイスで読まれるオンライン雑誌を刊行 しているという想定です。各記事には、ページ幅いっぱいのヘッダー画像が含まれます。以下は、こ ういったヘッダーのベース画像の表示例です。

3319×1674px, 3.09MB



Sandboxで編集

このセクション(および本ドキュメント全体)の例ではすべて、画像をクリックするとパラメータを適用したものをSandboxで表示できます。さまざまなパラメータを試して、その効果を確認することができます。

サイズ変更とトリミング

記事のページのヘッダーが、900×300ピクセルのコンテナー内に収まる、横に長く縦に短いバナーだとします。このコンテナにベース画像を収めるには、画像サイズを変更し、上下の画像データをトリミングする必要があります。

w=900&h=300&fit=crop&crop=entropy



Sandboxで編集

次の4つのパラメータを適用し、画像を調整しました。

- w=900&h=300: コンテナ内に収まるよう幅と高さを設定。
- fit=crop: imgixに対して、サイズ変更により発生する不要なデータの処理方法を指定。
- crop=entropy: imgixに対して、トリミングの原点の決定方法を指定。高コントラスト(泳ぐ人)

の部分に基づいてentropyの値で原点を調整し、トリミングした画像の中央に泳ぐ人が位置

するようにします。

自動コンテンツネゴシエーションとエンハンスメント

この時点では、問題なく画像がヘッダーのコンテナー内に収まっていますが、画像が少し暗く、ファイ ルサイズはオリジナルサイズから大幅に縮小されているにも関わらず、まだ890 kBもあります。さら に自動調整を加えて、こういった問題点をクリアしていきましょう。 w=900&h=300&fit=crop&crop=entropy&auto=format,enhance&q=60



Sandboxで編集

imgixが提供する2つの自動設定を適用し、「q」 (quality/画質)を低い値にすることで、ファイルサイズ を35 kBまで(約99%)縮小し、全体的なトーンを明るくしました。しくみは次のとおりです。

• auto=format: 対応可能なブラウザーでは、圧縮率がより高いWebPフォーマットに画像が変

換されます。

- auto=enhance: 画像調整を適用し、明るさやコントラストなどの設定を調整します。
- q=60: 画質を若干落として、圧縮率を高めます(デフォルト設定は 75)。

formatとenhanceはいずれも autoに有効な値なので、カンマ区切りで記述できます。

同じ画像で別サイズのものを用意するには、対象のコンテナに収まるようパラメータを編集するだけです。例えば、この記事を一覧で表示するために画像のサムネイルが必要になるかもしれません。 この場合は、wとhの値を変更するだけで、簡単に縮小版を作成できます。 w=200&h=125&fit=crop&crop=entropy&auto=format,enhance&q=60



Sandboxで編集

ソースのデフォルトパラメータの設定

カタログ内のすべての画像、またはほぼすべてをうまく調整できる一連のパラメータがある場合は、 それらをソースのデフォルトパラメータとして設定しておけば、全画像に自動的に適用されます(必要 に応じて画像ごとに上書き可能)。例えば、上記のヘッダー画像に基づいて標準のトリミング設定を 指定するには、fitとcropをソースのデフォルトパラメータとして設定します。

Image Defaults

Error Image URL		0
Error URL Params	No	0
Missing Image URL		0
Missing URL Params	No	0
Default Params	fit=crop&crop=entropy	0

注記: Auto=formatと chのパラメータはデフォルト設定には使えません。デフォルトパラメータの使用

方法ついての詳細は、このブログ投稿をご覧ください。

次のステップ

サイズ変更、トリミング、自動コンテンツネゴシエーションとエンハンスメントは、imgixで利用可能な機能のほんの一部です。この他にも、テキストオーバーレイ、スタイルの指定、マスクの適用、枠や余白の追加などのさまざまな機能もご利用いただけます。

こういった画像の変更はすべて、imgixの最先端アーキテクチャで処理されるため、高画質のものを 高速で配信することができます。

さらに、imgixの強固なクライアントライブラリを活用すれば、こういった処理をすべて既存のアプリ ケーションと簡単に統合できます。他にもimgixを多様に活用することで、画像をより簡単に、より速 く、より柔軟に配信することができます。利用可能なパラメータについての詳細は APIに関するドキュ メント、具体的な問題の解決策やユースケースについてはチュートリアルをご覧ください。

画像のセキュリティ保護

URLをセキュリティ保護することで画像のセキュリティ対策を強化し、アカウントへのアクセス権限を 持たない者による改変を阻止できます。好ましくないレンダリングの作成や、別のサイト向けのCDN での利用といったソースの悪質な利用の阻止に役立ちます。

imgixでは画像の配信に使用するすべてのURLに対してセキュリティ対策を行うことを推奨していま す。ソースのセキュリティ保護は、Amazon S3、Google Cloud Storage、Microsoft Azure、Web Folderの場合は必須ではありませんが、Web Proxyの場合は必須要件となっています。

画像のセキュリティ保護には、暗号化ハッシュ関数の「MD5」を使用して、オリジナルURLと、ソースのセキュリティ保護用にimgixが生成する固有のトークンとを組み合わせます。このハッシュ関数で生

成されるハッシュ値が「s」と合わせて署名なしURLの末尾に付加され、署名付きURLが作成されます。

パラメータ「s」の設定後に、URLのパスやパラメータが変更されると、変更後のURLには画像ではな く「403 Forbidden」エラーコードが表示されます。これによりURLパラメータの不正な変更を防ぐこと はできますが、パラメータ自体を変更しなければならない場合には、新しい**URL**に再度署名を付ける 必要があります。.

安全なURLトークンは、ソースの[Security]セクションで**[Show Token]**のボタンをクリックして確認で きます。これは次にご説明するSecure URLsオプションをオンにしたソースにのみに該当する機能で す。

トークンの露出

安全なURLトークンが露出してしまった場合は、安全性を確保した同一のソースを作成してから新し いソースに移行することを推奨します。こうすることで、古いソースが無効になるまでに十分な時間が 経過したと判断できるまで、現行のURLを引き続き機能させておくことができます。

Secure URLsの有効化

画像URLに署名を付ける前に、ソースのSecure URLオプションをオンにする必要があります。Web Proxyソースではこのオプションが自動的にオンになります。ソースがAmazon S3、Google Cloud Storage、Microsoft Azure、Web Folderの場合は、下記のステップを実行してください。

- 1. Sourcesページを選択し、更新したいソースの[View]をクリックします。
- 2. [Configuration]セクションで、[Edit]をクリックします。

3. [Security] サブセクションで、[Secure URLs]のチェックボックスをオンにします。

Security		
Secure URLs	0	\checkmark
crossdomain.xml	?	

- 4. ページ下部の[Review and Deploy]をクリックします。
- 5. 変更内容を確認し、[Deploy this Config]をクリックして、ソースへの変更を適用します。

ソースに対してSecure URLsオプションが有効化されたので、このソースから配信される画像URLに は署名を付けることができます。クエリ文字列の末尾に署名を追加するには、[Tools]タブのSign Image URLツールを使用します。このツールの使い方については、次のセクションをご覧ください。

画像ごとのセキュリティ設定

Secure URLsオプションをオンにすると、ソースの詳細ページ内にある[Sign URLs]ボタンをクリックして、画像ごとに署名を付けることができます。

Security			
Secure URLs	0	Enabled	
Token	?	SHOW TOKEN	
crossdomain.xml	?	Disabled	

個々の画像の設定

Jomain	?	Path			?
cgtesty.imgix.net	•	path/to/your_i	mage.png		
Parameters		0	Expires in (optional)	?
foo=bar&baz=100			30	days	~

- 1. 署名を付ける画像のサブドメインをドロップダウンリストから選びます。
- 2. 画像がソース内のフォルダーに置かれている場合は、そのパスを設定します。
- 3. 画像を変更するためのパラメータを割り当てます。
- 4. 署名の有効期限を設定します。
- 5. [Sign Image]をクリックします。
- 6. フォームが、署名付きURLに変わり、署名付きURLを直接クリップボードにコピーするボタン も表示されます。新しく作成された署名付きURLを使用して画像を配信します。

複数の画像の設定

URLs (one per line, limit 100)	(?
https://sample-src.imgix.net/image1.jpg?w=200 https://sample-src.imgix.net/image2.jpg?w=300	
	4

1. ページ右上にあるボタンの「Multiple」側をクリックします。

 署名を付ける画像すべてに対して、パラメータを含む完全なURLを入力します。入力できる URL数は最大100件です。

ツールの使用方法

画像URLに署名を付けるには、Tools ビュー内の[Sign URLs] セクションも利用できます。

Sign Image URL				LEARN MORE
Image URL (?)	Expires in ((optional)	0	
	30	days	~	
Signing an imgix URL adds a layer of security, by p unauthorized parties from changing the paramete can learn more about signing image URLs in our d	preventing rs on your UR locs.	Ls. You		

In order to sign image URLs for a particular source, that source must have the Secure URLs option enabled.

1. Image URLの項目に、画像を変更するためのパラメータを含む完全修飾URLを入力します。

詳しい使用方法については画像APIに関するドキュメントをご覧ください。

- 2. 署名の有効期限を設定します。
- 3. [Sign Image]をクリックします。
- 4. フォームが署名付きURLに変わり、署名付きURLを直接クリップボードにコピーするボタンも

表示されます。新しく作成された署名付きURLを使用して画像を配信します。

続けて他のURLに署名を付ける場合は、[Sign Another Image]をクリックします。

URLの有効期限切れ

URLには、expiresパラメータ(クエリ文字列のUNIXタイムスタンプ)で有効期限を指定することができます。下記はその一例です。

このUNIXタイムスタンプは、2016年10月30日午前1:01 (UTC)を表します。このタイムスタンプより後 にURLで受信したリクエストには、404ステータスコードが返されます。有効期限よりも前に受信した リクエストの場合は、画像のCache-Controlヘッダーの値が、有効期限切れになるまでの残り時間 (秒数)に置き換わります。同じexpires値で、現在時刻が2016年10月30日午前1:00 (UTC)である場 合、ヘッダーはCache-Control: max-age=60となります。

タイムスタンプはクエリ文字列で自由に変更できるので、そのような改変を禁止するため、expires ヘッダーを使用する画像には署名を付けることを推奨します。.

アプリケーション内の画像のセキュリティ保護

アプリケーションまたはWebサイト内の大量の画像をセキュリティ保護する場合は、imgixクライアント ライブラリの利用を強く推奨します。ライブラリでは各言語のさまざまな問題について、常に最新情報 を確認できます。imgix URL APIはシンプルですが、簡単には分かりにくい異例のケースもありま す。

クライアントライブラリで該当の言語がない場合は、imgix blueprintドキュメントのSecuring URLs (URLのセキュリティ保護)セクションをご覧ください。

画像のパージ

imgix上の画像を削除またはアップデートするには、imgixのキャッシュからその画像をパージしま

す。画像をパージする一般的な理由は次のとおりです。

- 1. 古い画像、または好ましくない画像がimgixソースを通して配信されている(例: 米国デジタル ミレニアム著作権法(DMCA)を順守するために画像の削除が必要)。
- 2. ソース内の画像を新しくしたいが、ファイル名を変更するという選択肢がない。

重要:新しい画像が著作権法に確実に準拠するようにするには、ファイル名を変更して画像の新しい パスを設定するのがベストです。画像のパージは、やむを得ない場合にのみ実行してください。

また、パージを実行してもimgixシステム外にある次からは画像は削除されません。

- ソース(Amazon S3、Google Cloud Storageなど)
- imgix以外のサードパーティのCDN(ご利用の場合)
- エンドユーザーのブラウザーのキャッシュ
- imgixとエンドユーザー間のISPキャッシュ

このため、エンドユーザーに古い画像が表示される可能性があります。パージの実行についてサポートが必要な場合は、サポートまでお問い合わせください。

パージのリクエスト

画像(例: https://assets.imgix.net/dogs.png)をimgixのキャッシュからパージすると、その派生バー ジョン(https://assets.imgix.net/dogs.png?w=400など)もすべて削除されます。ソース内のマスター 画像は、パージの実行による影響は受けません。

1. パージリクエストを実行する前に、ソース内の画像を削除または置き換えます。これ以降の

検証ステップは、変更するマスター画像の状態によって異なります。

2. パラメータなしで、画像へのベースパスのみを使用してパージAPIを呼び出します(例:

you.imgix.net/your-image.png)。他の実行方法については、下記のパージリクエストメソッド

をご覧ください。このリクエストで画像の派生バージョンがすべてパージされるので、個々に パージする必要はありません。

- リクエストが正常に受信されるとAPIからステータスコード200が返されますが、ここで
 パージの完了ではありません。
- 3. 画像を再度取得してパージされているかを確認します。
 - 画像を削除した場合は、404 エラーが返されることを確認します。
 - 画像を置き換えた場合は、新しい画像が表示されることを確認します。

通常パージ処理はimgixシステム全体で実行されますが、その完了時間は保証されていないため、 テストしてパージの完了を確認することを強く推奨します。

画像のパージに関するさらに詳しい情報は、画像をパージするとどうなるのかを説明したimgixブロ グ投稿(What Happens When You Purge an Image)をご覧ください。

パージリクエストメソッド

ダッシュボードから画像をパージ

画像を一番簡単にパージする方法は、imgix Dashboardの Tools ビューを使用することです。パー ジする画像のimgix URLを、Purge Single Imageセクションのテキストボックスにペーストし、 [Purge]ボタンをクリックするだけです。

Purge Single Image		LEARN MORE
Image URL	?	
		× PURGE

安全が確保されていないASCII文字はパージを実行する前に必ずエンコードしてください。URLのエ ンコーディングにより、安全ではないASCII文字が「%」と16進法の2桁の値に置き換えられます。例 えば、ファイル名にスペースが含まれる場合は、必ずこのスペースを %20と置き換えてください(例: https://assets.imgix.net/image file.png をhttps://assets.imgix.net/image%20file.pngに変更)。

アセットのパージは指定されたパスで実行されます。上記の例では、

https://assets.imgix.net/image%20file.pngはパージされますが、

https://assets.imgix.net/image+file.pngはパージされません。

curlによるパージ

コマンドラインを使用することに抵抗がなければ、最も速く画像をパージできる手段として利用できます。まず、[API Keys]ページでAPIキーを特定または作成します。APIキーには必ず Purge権限を 設定する必要があります。これとパージする画像のURLを以下の例に挿入します。

Pythonによるパージ

以下はPythonとリクエストライブラリを使用して画像をパージする例です。

サブ画像のパージ

markまたはblendとして使用される画像(サブ画像とも呼ばれます)は、その属性もパージする必要があります。以下の例では、コマンドラインによりサブ画像をパージします。

パージAPIについてさらに詳しい情報と例は、パージAPIに関するドキュメントをご覧ください。

アカウントの設定とアナリティクス

アカウント登録を済ませるとDashboardが最初に表示されます。画像をimgixにリンクさせると、ここ に基本的なアナリティクス、アカウントのアクティビティ、支払情報が表示されるようになります。右上 隅のドロップダウンリストをクリックして、アカウントにユーザーや支払手段を追加することもできま す。

ユーザーの追加

組織内の役割(エンジニア、買掛金担当など)に基づいて異なるアクセス権限を設定する必要がある 場合は、必要な人数分の権限レベルを設定することができます。ユーザーアカウントに設定できるア クセス権限数に制限はなく、imgixでは以下の権限に対応しています。

- Account Admin (アカウント管理者): ユーザーの追加や変更などを含む、すべての権限が 付与されます。
- Analytics (アナリティクス): 画像のアナリティクス(ソース別にフィルター表示可能)へのアク セス権が付与されます。
- Billing (支払情報): 支払情報を編集したり、請求書を表示して支払い処理を実行したりでき ます。
- Sources (ソース): imgixソースの作成、表示、編集、デプロイを実行できます。
- Purge (パージ): imgixキャッシュから、削除済みまたは古くなったアセットを除去できます。
- Image Manager Browse (Image Managerでの閲覧): Image Managerのコンテンツすべ てを見ることができます。

 Image Manager Edit (Image Managerでの編集): Image Manager内での画像を編集したり、Image Managerへ画像をアップロードしたりできます。(注記: この権限には自動的に Image Manager Browseの権限が含まれます。)

ユーザーを追加する場合:

- 1. アカウントのUsersセクションを開きます。
- 2. [Add User]ボタンをクリックし、氏名とメールアドレスを入力します。
- 3. このユーザーに付与する権限を選択し、[Create User]をクリックします。

img 🔀 🛛 Dasht	ooard Sources Images Analytics Tools	Support Chris Zach	arias 🗸
Users		+ A	DD USER
User	Email	Permissions	
Frank Bowman	frank@imgix.com	Sources Billing Analytics Image Manager Edit Image Manager Browse	\$
Chris Zacharias	chris@imgix.com	Account Admin	?
Uriel Flowers	uriel@imgix.com	Sources Billing Analytics Purge	\$
Lilly Kirk	lilly@imgix.com	Analytics	*
Rowan Mayer	rowan@imgix.com	Image Manager Edit Image Manager Browse	\$
Jayvon Conrad	jayvon@imgix.com	Sources Billing	\$
Cindy Chu	cindy@imgix.com	Account Admin	\$
Aubree Perry	aubree@imgix.com	Sources Analytics Image Manager Browse	*

このフォームを送信すると、ログイン情報の設定先のリンクを含むメールがユーザーに届きます。リ

ンクの有効期限は24時間です。

クレジットカードの追加

imgixの新規アカウントを開設いただくともれなく、最初の月に10ドル分のクレジットが適用され、リス クフリーでサービスをお試しいただけるようになっています。クレジットを使い切った後はクレジット カード情報を入力して、サービスを引き続きご利用いただけます(請求書の発行手続きをされていな い場合)。アカウントにクレジットカード情報を追加する方法は以下のとおりです。

1. [Billing]を選択し、[Payment Details]で[Add]をクリックします。

Verification	?	Expiration		Postal Code	
		MM /	YY		

2. クレジットカード情報を入力し、[Save]ボタンをクリックします。

「請求書のみ」のユーザーがいる場合は、この設定をしてもらう必要があります。契約と請求書処理 を設定する場合は、営業部門にお問い合わせください。

アナリティクスの活用方法

Analyticsセクションにて、アカウントやimgixサービスの利用状況に関する統計データを確認することができます。データの更新頻度は1時間に1回です。この統計データを分析して、サイトやアプリの

毎月の利用状況を評価することができます。各用語の定義は、各セクションの(?)アイコンをクリックして、またはGlossaryで確認できます。

imgixのアナリティクスと価格設定の基本概念は以下のとおりです。旧価格プランは以下の内容と異

なる場合があります。

マスター画像とレンダリング画像の違い

マスター画像は、サーバーやAmazon S3などのWebホスティングサービスで保存しているオリジナ ル画像のことです。レンダリング画像(派生バージョン)は、imgixのAPIパラメータを適用後にユー ザーに配信される画像を指します。画像の固有のバリエーションはそれぞれ1つのレンダリング画像 として扱われます。ユーザーの状況に応じて同じ画像を異なるパラメータを使って配信する可能性が あることから、マスター画像数よりレンダリング画像のほうが当然多くなります。



現在の価格設定では、リクエストされるマスター画像に対して料金が発生しますが、派生バージョンの作成に対しては料金は発生しません。マスター画像のカウンターは毎月月初にリセットされるため、マスター画像が最初にリクエストされカウントされるときに、一時的に数値が上がります。

合計帯域幅

画像の派生バージョンに対して料金は発生しませんが、それらをエンドユーザーに配信するために 必要な帯域幅(合計帯域幅)に対しては発生します。合計帯域幅には、imgixのレンダリングエンジン からCDNへ画像の派生バージョンをリクエストするための帯域幅(レンダリング帯域幅)、キャッシュす るための帯域幅、CDNからユーザーに派生バージョンを配信するための帯域幅(CDN帯域幅)が含 まれます。フェッチ帯域幅もこのページでトラッキングされますが、現在の価格設定では料金は課さ れません。



日毎データと累計データ

毎月の利用状況の統計データは、1日ごとの合計数値と、日々の累計値の2種類のモードで表示で きます。異なる粒度のデータが提供されるので、利用状況を明確に把握することができます。日毎 データでは、月のどの時点で一時的な上昇があったかを確認できます(Webサイトへの変更が利用 状況にどう影響するかをトラッキングするのに便利)。累計データは、月初から月末までの全体的な 傾向の確認に役立ちます。

Total Bandwidth ?	304.65 GB	Total Requests ?	85.60 M	Avg. Response Time 🕐	35 m
May April	1.04 GB 11.104 GB 9.31 61	May April	44M - 2.55 2.564 2.564 2.564 2.564 1.554	May April	250 ms 200 ms 150 ms 100 ms 50 ms

その他のリソース

- Glossary: imgixとコンテンツ配信に関する用語をまとめたグロッサリ
- HTTP Status Codes: 画像処理エラーが発生した際に返されるステータスコードの一覧
- ガイド: 画像(SEO、キャッシングなど)に関連した業界のベストプラクティスの紹介
- チュートリアル:具体的なユースケースでのimgix導入方法のステップごとの詳しい説明

Image Manager

Image Managerを使って、クラウドストレージバケット内の画像を今までにはないやり方で検索、視覚化、閲覧、整理することができます。Image Managerは、バケットのすべての画像を検出、または imgix経由でユーザーがアクセスしている画像のみを検出する、のいずれかに設定できます。クラウ ドストレージプロバイダーとは異なり、imgixでは全画像にサムネイル付きのビジュアルインターフェー スが提供されるため、コンテンツをすばやく確認できます。

Image Managerへのアクセス

Image Managerを開くには、Dashboardトップのナビゲーションバーにある[Images]のリンクをクリックします。[Images]のリンクがない、またはエラーメッセージが表示される場合は、ご利用のアカウントでImage Managerが有効になっていない可能性があります。このプレミアム機能をご利用になりたい場合は、弊社までお問い合わせください。

注記: Image Managerはプレミアム機能で、すべてのアカウントで有効になっているわけではありま

せん。詳しくはサポートまたはアカウントマネージャーにお問い合わせください。

閲覧

Image Managerのホームページでは、List Viewでソースごとにすべての画像を閲覧できます。ソースは、左上隅のSourceドロップダウンリストで切り替えられます(ソースが1件しか設定されていない場合は、ドロップダウンリストは表示されません)。



デフォルト設定では、作成日(最新)順に画像が表示されます。更新日順やファイルサイズ順にもソートできます。いずれのソートも昇順と降順の切り替えが可能です。



画像の詳細

List Viewで画像のサムネイルをクリックすると、右側のInfo Panelに画像の詳細が表示されます。



Info Panelには、メタデータ、機械学習により生成されたタグ、ユーザー定義のカテゴリ、ユーザー定義のカスタムフィールド、コンテンツアラート、色情報が表示されます。各項目は「展開」と「折りたたみ」の切り替えが可能で、デバイスやブラウザーごとに展開/折りたたみの状態がImage Managerに保存されます。

Metadata

この項目には以下のような画像のメタデータが表示されます。

ファイル名

- クリックできるimgix URL (例: https://assets.imgix.net/examples/bridge.jpg)
- コンテンツタイプ
- ファイルサイズ
- 画像サイズ
- DPI(解像度)
- Faces (顔認識をオンにしているアカウントの場合)



Image Tags 画像タグは機械学習を活用した分析を基に作成され、コンテンツや画像のテーマを描写するものです。確信度順に表示され、マウスを重ねるとそのタグの確信度が確認できます。



タグをクリックして、ソース内の同じタグを持つ他の画像を検索することができます。

画像からタグを削除するには、[Edit]ボタンをクリックし、タグの横の[x]をクリックします。タグを削除したら、[Save]ボタンをクリックします。削除したタグはグレー表示となり、確信度が0%になります。

画像タグの作成はプレミアム機能で、すべてのアカウントでご利用いただけるわけではありません。 このプレミアム機能をご利用になりたい場合は、弊社までお問い合わせください。

Categories

ユーザーが定義するカテゴリで、画像の整理に便利です。カテゴリを追加するには、[Add]ボタンをク リックし、既存のカテゴリを選択、または[Add new category]をクリックして新しいカテゴリを入力しま す。カテゴリをクリックして、ソース内の同じタグを持つ他の画像を検索することができます。



カテゴリは、Image Manager Settings (link to IM settings section)から削除または編集できます。

Custom Fields

カスタムフィールドは、ユーザーが定義するキー値のペアで、画像に情報を関連付けるために使用し ます。一般的なユースケースはユーザーや商品IDを追加する場合で、キーを「ユーザーID」、値を「 123」などと設定します。カスタムフィールドを追加するには、[Add]ボタンをクリックし、表示されるリス トからキーを選択、または[Add New Key]をクリックして新しいキーを入力します。キーと値を入力し たら、[Save]ボタンをクリックします。



カスタムフィールドは、Image Manager Settings (link to IM settings section)から削除または編集できます。

Content Alerts

コンテンツアラートは、機械学習を活用した分析を基に生成され、次の5つのカテゴリが表示されま す: Adult (アダルト)、Violent (暴力)、Medical (医療関連)、Racy (卑猥)、Spoof (元画像の改変)。画 像にはこの5つのカテゴリそれぞれについて次のアラート値が与えられます。可能性の低い順に: Doubtful (可能性が非常に低い)、Unlikely (可能性が低い)、Possible (可能性がある)、Likely (可能 性が高い)、Probable (可能性が非常に高い)。[アダルト]または[暴力]のカテゴリで画像のアラート値 が「可能性が高い」以上の場合は、アラートの重大度に応じてContent Alertsヘッダーのアイコン表 示が変わります。(以下のスクリーンショットの画像は[Adult]カテゴリに該当する可能性が「Possible」 と分類されていますが、説明の便宜上そのように設定されているだけで実際はそうではありませ ん。)



コンテンツアラートはプレミアム機能で、すべてのアカウントでご利用いただけるわけではありません。このプレミアム機能をご利用になりたい場合は、弊社までお問い合わせください。

Color Data

色情報の項目では、画像のカラープロファイル、カラーモデル、ドミナントカラーが表示されます。カ ラーをクリックして、そのカラーを含む他の画像を検索することができます。



Image Detailsビュー

画像の詳細ビューでは、元のアスペクト比のままで、サイズを大きくした画像が表示されます。この ビューを開くには、List Viewで選択中の画像サムネイルをクリック、またはList View上の画像サムネ イルをダブルクリックします。Image Detailsビューを閉じるには、左上隅の[x]をクリック、またはキー ボードの[Esc] キーを押します。



Image Detailsビューの右上隅には、画像の表示/非表示オプションもあります。非表示を選択する と画像にモザイクがかかり、元のコンテンツがぼやけて表示されます。もう一度表示を選択すると、 元の画像の表示に戻ります。画像の表示/非表示はImage Manager内のみでの動作で、Image Manager外にある実際のレンダリングには影響しません。表示または非表示にした画像は、Image Manager内ではそのままの状態が維持されますが、ブラウザーやデバイス、またはユーザー間では 状態は保存されません。

デフォルト設定では、[アダルト]または[暴力]のカテゴリでアラート値が「可能性が高い」以上の画像 は自動的に非表示となります。



検索

キーワード検索

画面トップ付近の検索ボックスにキーワードを入力してキーワード検索を実行できます。事前に設定 済みの複数のフィールドを検索します。例えば、画像のオリジナルパス、画像名、説明、タグ、カテゴ リ、カスタムフィールドなどのフィールドが対象となります。正確な動作は変更になる場合がありま す。



タグ検索

タグに基づいて画像の検索を実行できます。画像のタグをクリックすると、そのタグを含む他の画像 を検索します。



カテゴリ検索

カテゴリに基づいて画像の検索を実行できます。画像のカテゴリをクリックすると、そのカテゴリを含む他の画像を検索します。

カラー検索

カラーに基づいて画像の検索を実行できます。画像のカラーをクリックすると、そのカラーを含む他の画像を検索します。

より高度な検索を実行する場合は、検索ボックスの右側にある[ADVANCED]をクリックします。 [Advanced Filters]による検索は、タグ、カテゴリ、カスタムフィールド、カラー、フォルダーパス、コン テンツアラート、顔認証、アニメーション、ファイルタイプ、ユーザーが編集した画像かどうか、といった フィルターに基づいて実行されます。複数のフィルターを選択すると、それらすべてのフィルターに該 当する画像が検索の対象となります。

img 🔀 Dashboard Sources Ima	ges	Analytics Tools	Support			2	Tyler Stegall Four Bottle Coffee Com	
× Advanced Filters "Light" + ♥ room (I≡ Shop Inspiration) (■ #A60	6037	■〕 photographer: Miguel 0	Cardona Jr.				CLEAR Q S	EARCH
IMAGE TAGS	FOLDER PATH	L FACES		ANIMATED				
Ex. Mountains	+	Enter a valid folder pa	ath		No Preference	•	No Preference	•
E CATEGORIES	CONTENT MODERATION			FILE TYPE		∠ USER EDITED		
Select a category	•	Adult	*	*	No Preference	•	No Preference	•
🛒 CUSTOM FIELDS	Violent	•	•					
Key 💌 Value	+	Medical	•	•				
COLORS		Racy	*	*				
Select a color	•	Spoof	-	•				

Image Manager設定ページ

作成したカテゴリやカスタムフィールドのキーは、Image Manager Settingsページで編集できます。 このページは、Account Settingsページ内のリンク、またはImage Managerの右上隅にある歯車ア イコンをクリックしてアクセスできます。



カテゴリまたはカスタムフィールドを変更すると、そのメタデータに関連付けられているすべての画像 のカテゴリまたはカスタムフィールドが自動的に更新されます。カテゴリまたはカスタムフィールドを削 除すると、そのメタデータに関連付けられているすべての画像のメタデータからも削除されます。注 記:カテゴリまたはカスタムフィールドは削除すると元に戻せないため、削除は慎重に行ってください。

アップロード処理

Image Managerを使用してクラウドストレージのソース(Azure、GCS、S3など)に直接アップロードできます。Web FolderソースとWeb Proxyソースにはアップロードできません。

アセットをソースにアップロードする前に、Upload Setupでアップロード先の各ソースを設定しておく 必要があります。

アップロード設定が必要な理由

レンダリング用にソースを設定する際にimgixが必要とするのは、画像のレンダリングに最低限必要 な「読み込み」と「リスト」のアクセス権限のみです。画像をアップロードするためには「書き込み」のア クセス権限が必要となります。これには、レンダリングへの影響を避けるために別の認証情報を設定 することが推奨されます。

アップロード設定

ソースのアップロード設定がまだの場合は、Image Managerの右上隅にある[Upload]ボタンをクリックしてUpload Setupビューを開きます。または、List View内にファイルをドラッグアンドドロップして表示することもできます。

img 🔀 Dashboard Sources Images Analytics Tools Si	upport Tyler Stegall							
Upload Setup Images > Upload Setup								
Why is uploading setup required? When you set up your Source for rendering, imgix only requires read and list permissions because they are the minimum permissions required to render images. For uploading, write permissions are required and we recommend using separate credentials to ensure your rendering is not impacted.								
Add your S3 credentials Please provide the following information to enable uploading images to your bucket. The credentials you provide should have these IAM	Access Key ID							
permissions: ListBucket, GetBucketLocation, GetObject, and PutObject.	Socrat Access Key							
we highly recommend creating new IAM creating just for use by imgix and that they be separate from your Source configuration credentials.								

レンダリング用のものとは別に、imgix専用の新しい認証情報を作成することを強く推奨します。

Azure

Azureソースの場合は、新しい共有アクセス署名(Shared Access Signature/SAS)のトークンを生成 する必要があります。SASトークンの文字列は、ストレージアカウントのShared Access Signature設 定ページで生成できます。以下の設定を変更します。

- 使用できるサービス: サービスの種類に応じて、[ファイル]または[Blob]を選択します。
- 使用できるリソースの種類: [コンテナー]と[オブジェクト]のみを選択します。

- 与えられているアクセス許可: [読み取り]、[リスト]、[書き込み]を選択します。
- 開始日時と有効期限の日時:終了日時を「2029-01-01」、または1年以上先の日時に変更します。

最後に**[SAS**と接続文字列を生成する]をクリックして完了です。その下に「SASトークン」というレベル 名のテキストボックスが表示されます。このボックス内の「?sv=」で始まる文字列がSASトークンで す。

GCS

GCSソースの場合は、Storageオブジェクト管理者のロールをGCSのロールリストに追加します。 ロールをユーザーに追加した後は、コンソールの設定ページに移動し、[相互運用性]タブでキーを 作成する必要があります。

S3

アップロード用に新しいS3の認証情報を作成するには、IAMアカウントの「Amazon S3フルアクセス」 ポリシーのテンプレートが最も簡単な手段です。

- 1. AWS IAM Dashboardを開きます。
- 2. 左側のナビゲーションペインで[ユーザー]をクリックします。
- 3. [ユーザーを追加]をクリック、または既存ユーザーを選択します。
- ユーザーを追加する場合は、[ユーザー名]を指定し、[プログラムによるアクセス]を選択します。[次のステップ: アクセス権限]を選択します。

- 5. [アクセス権限]タブに移動し、[アクセス権限の追加]ボタンをクリックします。
- 6. 次に、[既存のポリシーを直接アタッチ]のタブを選択します。
- ポリシーテンプレートの一覧が表示されます。「Amazon S3フルアクセス」の行までスクロー ルダウンして、その横の[選択]ボタンをクリックします。
- 8. [次のステップ: 確認]を選択し、[アクセス権限の追加]をクリックします。

または、特定のアクセス権限を設定する場合は、次の権限を付与してください。

- ListBucket
- GetBucketLocation
- GetObject
- PutObject

画像のアップロード

アップロードの設定が完了すると、Image Managerの右上隅にある[Upload]ボタンをクリック、または List ViewIこファイルをドラッグアンドドロップして、画像のアップロードを開始できます。

img 🔀	Dashboard	Sources	Images	Analytics	Tools	Support	Uploading 0 / 1	3 🛓	Fyler Stegall Four Bottle Coffee Company
Upload Manager									
Finishe	d								
Files	S	ource		Size		Upload Started			
Queued Uploads									
File Name						Source		Туре	Size
😢 closeup-mu	ug.jpg					fourbottle		.jpg	1.96 MB

アップロードするすべての画像に対してアップロード先のパスを指定することができます(オプション)。これは特定のサブディレクトリに画像をアップロードしたいときに便利です。

注記: Image Managerがバケット内のコンテンツを上書きすることはありません。バケット内に bridge.jpgというファイルがすでにあり、バケットの同じ場所に同じくbridge.jpgと名付けたファイルを アップロードしようとすると、アップロードは完了しません。 [Upload]ボタンをクリックすると、Upload Managerビューが表示され、アップロードの進捗状況を確認できます。アップロードの完了後、[View]ボタンをクリックすると、Image Manager画面に戻り、先ほどアップロードしたファイルを確認できます。



アップロードした画像はすぐにImage Managerに表示され、他の画像と同様に検索や編集できるよう

になります。

Image Manager O API

DashboardのImage Managerの機能はほぼすべて、APIを使用しても実行できます。詳しくはImage Manager APIに関するドキュメントをご覧ください。